

2024 年度 評価結果報告書



調布市立なないろ第1・第2学童クラブ

(学童クラブ)

株式会社日本生活介護

評価推進機構への報告

- | | | |
|----|-------------------|-----------------|
| 1. | 福祉サービス第三者評価結果報告書 | |
| 2. | 事業プロフィール | |
| 3. | 利用者調査 | ・・・・・・・・ p1～3 |
| 4. | 組織マネジメント | ・・・・・・・・ p5～13 |
| 5. | サービス分析 | ・・・・・・・・ p15～24 |
| 6. | 事業者が特に力を入れている取り組み | ・・・・・・・・ p25 |
| 7. | 全体の評価講評 | ・・・・・・・・ p26 |

評価推進機構への報告



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)基本的な生活習慣を身につけ、自分で考え行動する 2)集団生活の中で社会性を身につける 3)育成を通して様々なことを感じ、考え、それを自己表現する 4)安全・安心な学童クラブ運営 5)施設間の連携 6)中期経営計画の取り組み推進
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1)職員に求めている人材像や役割 ・利用者一人ひとりを大切に、安全・安心・快適に過ごすことができるよう、常に改善の意識を持ち、利用者から選ばれる施設運営を目指します。「利用者から選ばれる」東京かたばみ会 ・働く人一人ひとりが心に余裕をもち、働きやすい職場となるよう業務改善を進め、仲間を大切にする法人運営を目指します。「みんなが助け合う」東京かたばみ会 ・働く人一人ひとりの力を伸ばし、挑戦意欲を発揮できる職場となるよう、人材の育成・定着を図ります。「みんなが助け合う」東京かたばみ会 ・やがて土から芽を出し、きれいな花が咲くように、この5年間でしっかりと経営基盤の基礎を固め、持続可能な法人経営を目指します。「しっかり根を張る」東京かたばみ会 (2)職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・利用者の目線で考え実践できる職員になる。 ・確かな時代認識の上にたって新たな課題に道筋をつけ、責任を持って実行できる職員になる。 ・既存の習慣にとらわれることなく常に幅広い視点から柔軟に改革できる職員になる。 ・福祉の心を念頭にコスト意識をもって行動できる職員になる。

《事業所名：調布市立なないろ第1学童クラブ調布市立なないろ第2学童クラブ》

調査対象

登録児童全員を対象とした(事業所と協議のうえ、長期欠席の児童を除く)

調査方法

学童クラブからアンケート用紙を配布し、記入後は返信用封筒に入れ、直接評価機関へ返送していただくか、学童クラブに設置した回収BOXに投函し、学童クラブからまとめて評価機関へ返送していただくこととした。

利用者総数

98

共通評価項目による調査対象者数

97

0

97

共通評価項目による調査の有効回答者数

95

0

95

利用者総数に対する回答者割合(%)

96.9

0.0

96.9

利用者調査全体のコメント

調査対象者97名のうち、95名から回答を得ることができた。
 満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか」「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」「職員の接遇・態度は適切か」などがあげられる。
 総合的な満足度では、78名が「大変満足、満足」、13名が「どちらともいえない」、2名が「不満、大変不満」、2名が「無回答」と回答している。また、「おもちゃや本を増やしてほしいです」「楽しいおもちゃがあります」「もう少し優しく話しかけてほしいです」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	71	13	2	9
71名が「はい」、13名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 また、「ドッチビーが楽しいです」「おやつがおいしいです」「いろいろなことができる楽しいところです」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	51	12	7	25
51名が「はい」、12名が「どちらともいえない」、7名が「いいえ」と回答している。 また、「優しく話を聞いてくれます」「話していません」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	71	9	4	11
71名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」と回答している。 また、「とても楽しい時間です」「好きなおやつが出てうれしいです」「班の人がちゃんとしてくれません」などのコメントがあがっている。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	34	24	3	34
34名が「はい」、24名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 また、「意見を聞いてくれます」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	61	8	4	22
61名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」と回答している。 また、「わかりやすい説明でした」などのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	45	16	12	22
45名が「はい」、16名が「どちらともいえない」、12名が「いいえ」と回答している。 また、「きれいです」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	62	11	2	20
62名が「はい」、11名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 また、「きちんとしています」などのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	73	6	1	15
73名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「助けてくれます」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	65	7	3	20
65名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 また、「助けてくれます」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	51	10	2	32
51名が「はい」、10名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 また、「大切にしてくれていると思います」などのコメントがあがっている。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	43	7	7	38
43名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、7名が「いいえ」と回答している。 また、「守ってくれます」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	50	8	4	33
50名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」と回答している。 また、「良くなりました」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	39	7	5	44
39名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」、44名は「無回答・非該当」と回答している。 また、「伝えてくれました」とのコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準项目实施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリ1の講評		
	法人の基本理念や児童部門の基本方針を理解する機会を複数設けている 法人の単年度事業計画では、児童部門の基本方針や育成目標、運営の方向性が詳細に示されている。この計画は各施設に配布されるとともに、理念は事業所マニュアルにも掲載し、職員が常に意識できるよう工夫している。また、新任職員には採用時の研修で理念や基本方針を学ぶ機会を設け、さらに年2回の全体会議を通じて、その理解を深め、意識の共有を図っている。理念や方針については会議体等で伝達しているが、今後はその理念が日々の業務にどのように結びついているのかを具体的に伝え、理解を深めていく方針である。		
	各会議体を設け、決定事項等の周知の流れを整理して、共通認識を進めている 法人では、「安全・安心な学童クラブ運営」を重点事項として掲げ、リスクマネジメントへの取り組みと、子どもの権利擁護に向けた方針を定めている。これを実現するため、法人主導のもと定期的に施設長会議を開催し、計画の進捗状況を確認するとともに、各施設が抱える課題の解決に向けた議論を行っている。また、各施設の職員会議で挙がった意見や提案は、施設長会議において検討され、現場の状況理解を深めながら、共通の対策を講じることで、サービスの標準化や安全対策の向上につなげている。		
	職員全体で集まる機会を設け、円滑な事業運営に向けて取り組んでいる 学童クラブ全体会は、全正規職員を対象とし、各施設の職員が顔を合わせる場として開催されている。この会では、年度の業務における重点項目を共有するとともに、共通認識を深め、職員間のコミュニケーションを促進することで、協力関係の構築を目指している。また、年度の中頃には2回目の全体会を実施し、遊びをテーマに据えた交流の場を設けている。この会では、職員同士がチームを組み、交流試合などを通じて親睦を深めるとともに、子どもへの遊びの指導力やコミュニケーション能力の向上を図っている。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1 (2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6 評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリ2 (2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリ2の講評 子どもや保護者、地域のニーズを常に把握した方針の決定をしている 定期的な利用者アンケートを実施し、その結果を分析することで、子どもや保護者のニーズを的確に把握している。特に、学童クラブの利用ニーズが高まる中で、保育園や幼稚園との連携を強化し、途切れのない子育て支援の実現を目指している。また、市の事業者連絡会や学童クラブあり方検討委員会への参加を通じて、国・都・市の児童健全育成の方向性を踏まえながら、法人としての方針を定めている。さらに、この法人の方針に基づき、放課後児童部門の中期経営計画を策定し、職員全体で各業務を検討しながら、計画の達成に向けた取り組みを進めている。 中期計画から各事業所の事業計画の重点項目が設定されている 法人の中期経営計画では、「各施設における子どものケガの発生を最小限に抑え、安全・安心な管理運営に努める」ことを重要なテーマとして掲げている。これを受け、単年度事業計画の学童クラブ全体の重点事項として、「安全・安心な学童クラブ運営」「施設間の連携」「中期経営計画の取り組み推進」の3点を定め、具体的な行動を示している。さらに、事業所の重点事項としては、家庭では得がたい遊びや学びの機会を提供し、子どもの興味を広げるとともに、自主性を育む活動の場とすることを掲げている。 法人の計画が職員に深く認知されており、各事業への理解が十分に進んでいる 今回実施した職員自己評価の結果から、法人の中期経営計画や事業所の単年度計画に対する職員の理解度が深いことが明らかになった。これは、学童クラブ全体会において、放課後児童部門の方針や事業所の重点事項を定期的に周知・確認していることが要因と考えられる。一方で、経営層は有期契約職員やパートタイマー職員に対しても、事業所における中期経営計画の取り組みについて理解を深めてもらいたいと考えている。今後はこれらの方針を統一的に周知する機会を設け、職員全体で共通認識を持ち、目標達成に向けて取り組んでいく方針である。		

3 経営における社会的責任			カテゴリ-3
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-3の講評 日常的に子どもや保護者の意見や要望を聞き取り、苦情に至らない対応を心掛けている 経営層は、年2回の苦情解決第三者委員会において、法人内の各事業に寄せられた苦情の内容、解決までの経緯、改善策を報告し、職員全体に周知を行っている。これまで放課後児童部門における苦情の実績はないが、他部門での事例を通じて、解決までの経緯を理解し、事前の防止策を講じることは、質の高いサービス提供において重要な取り組みと位置付けている。また、苦情の対象は子どもや保護者に限らず、地域からの意見も想定し、市の担当課と情報共有や解決に向けた取り組みを確認している。 定期的な権利擁護に向けた意識付けの取り組みが継続的に行われている 毎年12月の人権週間に合わせて、法人独自に作成した「子どもの人権擁護のためのセルフチェックシート」を各学童クラブ職員全員に実施し、その結果を統計として取りまとめている。このチェックシートは、日常業務や特定の場面での職員の行動を問う内容となっている。その結果は、各施設の会議や学童クラブ全体会において報告され、権利擁護意識の向上や啓発に活用されている。さらに、市の担当課からは、都や市で実施される権利擁護に関する研修の情報が提供されており、放課後児童部門からの指示や職員の希望に応じて、受講が進められている。 地域社会とのつながりを子どもと一緒につくり、未来の地域社会の形成を目指している 法人は、市内に7つの学童クラブを運営している強みを活かし、各地域の特性を深く理解しながら、連携体制の強化に努めている。事業所周辺は、新興住宅地としての変化が進む地域であり、地域コミュニティの様相も変化してきている。特に、自治会などの世代交代や新型コロナウイルスの影響により、地域のつながりに変化が見られる。こうした状況を踏まえ、他の学童クラブや児童館との交流をはじめとした地域のつながりの再構築に取り組み、子どもが主体となる地域コミュニティの確立とその継承を目指している。		

4	カテゴリー4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー1(4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	
	●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	
	●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	
	●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
	サブカテゴリー2(4-2)		
	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	
	●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	
	●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	
	●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	
	カテゴリー4の講評		
	市内の感染状況を十分に把握した上での、各施設の対策と注意喚起を行っている 法人の事業計画において、「安全・安心な学童クラブ運営」を目標として掲げ、具体的な取り組みとして事故・ケガの防止、感染症予防対策、および避難訓練の実施を定めている。事故防止については、各学童クラブで発生したインシデントリポートを集約し、場所や時間帯などを分析。これにより、活動時の場所の設定や見守り体制の見直しなど、改善策に反映させている。また、市内の感染状況を常に把握し、流行期には注意喚起を各施設に連絡し、事前に対策を行うことで感染症の予防に努めている。 施設の立地に応じた災害時の計画と体制が整備されている 事業所は、市の水害ハザードマップで浸水想定区域内に位置しているため、近隣の小学校と災害時の連携体制を整えている。年間で6回の避難訓練を実施するとともに、業務アプリを活用したテストメール配信や災害伝言ダイヤルの使用訓練を毎月行い、非常時の対応力を高めている。また、1階には同法人が運営する保育園があることから、建物内の避難場所を連携して定めている。さらに、事業継続計画(BCP)において、非常勤職員には特定の役割を設けず、法人のバックアップのもとで行動することとしている。 電子データの安全管理について、今後は更に取り組んでいきたいとしている 市の指導のもと、個人情報の取り扱いや管理方法が徹底されており、定期的な実地検査を受けて運用状況の確認が行われている。法人の規定に基づき、電子データや記録媒体の管理も厳密に行われている。例えば、子どもの写真データはオフラインPCで取り扱い、配信用データに加工する手順が定められており、安全な管理体制が整備されている。また、アプリを通じた情報発信において、二次転用等のネットリテラシー対策に関して、市全体での取り組みが進められることを期待している。		

5 職員と組織の能力向上			カテゴリー5
サブカテゴリー1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 3 / 3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評価 標準項目 評点(〇〇〇)		
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評 適切な職員配置における支援体制を確立し、OJTによる職員育成を行っている 市内の学童クラブ利用のニーズ増加を受け、法人では正規職員の採用を積極的に行っている。これは、学童クラブや児童館、保育園などの児童部門の拡充に向け、次世代の事業担い手を育成することを目的としている。人員配置は支援単位に応じて適切に行い、活動内容については施設長と職員が協力し、方針を定めている。また、事業所の特色として、職員の年齢層が幅広く、経験に応じた正規職員と非常勤職員がペアを組み、互いに学び合いながら子どもを支援している。 法人の方針や職員の意向を踏まえた研修受講を進めている 法人では、正規職員の勤続年数に応じた段階的な研修受講を計画的に進めている。子どもの育成支援に必要な研修については、正規・非常勤を問わず、職員会議などで共に実施し、知識の向上に努めている。これまでの所内研修では、事故防止や緊急時対応を重視し、積極的に取り組んできた。また、障害児の受け入れを積極的に行ってきたことから、保護者の口コミを通じて利用希望の声が多く寄せられている。そのため、職員からは専門的な障害児の支援に関する知識を深めたいという要望が多く上がっている。 職員間の交流を通して、組織力の強化やサービスの標準化を図っている 年2回行われる学童クラブ全体会では、1回目に事業の目標・方針の確認や研修、重点事項の確認を行い、職員間での認識を統一している。2回目は、各施設の職員間のコミュニケーションの活性化や、育成支援の技術を共有し、楽しみながら行える場として開催している。この取り組みを通して、法人の運営する学童クラブでの業務やサービスの標準化を図り、異動等があった際にも迅速に組織形成が行える体制を整えている。これらの活動を継続的に実施することで、法人の児童部門が共通認識を持って事業を運営できるよう努めている。		

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)			
【課題・目標】 法人の中期計画にある4つの柱の実現にむけた事業評価を適正に行うこと。			
【取り組み】 外部コンサルタントを活用しながら、四半期ごとの見直しの際に進捗管理を行った。			
【取り組みの結果】 A・B・Cの三段階評価により、進捗状況を明確にし、適正な事業評価と課題の抽出を行うことが出来た。			
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 学童クラブの委託を受けた法人は、市の基準を遵守しつつ、法人独自の取り組みを盛り込んだ4つの柱による中期経営計画を立案し、魅力ある学童クラブの運営を目指している。その柱は、地域に根ざしたサービスの質の向上、人材の確保・育成・定着、業務の効率化・運営の標準化、新拠点の業務委託を円滑に行うという4つの目標で構成されている。各項目については、外部コンサルタントの助言を受けて、具体策を設定し、学童クラブが設置されている各地域に応じた単年度計画を作成している。また、計画の進捗状況や達成度については、四半期ごとに確認と見直しを行い、必要に応じて修正を加えている。各目標に対しては、年次評価を3段階で定め、評価基準はA(計画以上に進捗が確認できた)、B(概ね計画通り)、C(進捗に遅れが見られ、改善が必要)となっており、次年度に向けた課題抽出を行っている。これらのプロセスを通じて、目標達成に向けた手順が整理され、実行に移されている。			

評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
【課題・目標】 安全・安心な学童クラブを実現するための事故防止対策を徹底する	
【取り組み】 各学童クラブのヒヤリハット・事故報告の内容を分析し、各種マニュアルの改訂とその内容の周知を行う	
【取り組みの結果】 児童引き渡しの手順の整理がされたことによる適正な子どもの引き渡し改善された事、受診につながる事故等の各施設の目標値を設定し、計7施設中6施設が目標を達成した。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 事業計画において、各施設の重点事項を明確にし、法人の目標である「安全・安心な学童クラブ」の実現に向けて取り組んでいる。特に、受診につながる事故防止と、児童引き渡し時の間違いをなくすことを目標に掲げている。事故防止に関しては、事故やヒヤリハット報告の内容を精査・分析し、その対策を全施設に周知した。また、適正な児童の引き渡しに関しては、使用アプリの使い方や手順を整理し、マニュアルの改訂と職員への周知を行った。この取り組みによって、事故報告や受診に繋がる事故発生件数は減少した。この取り組みは次年度も継続し、発生要因やその対応をさらに精査し、より安全な環境の提供と職員の育成支援に反映させていくこととしている。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4 / 4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
学童クラブ入会申請の広報は、市の広報やホームページで掲載されWeb申請もできる 事業所は、子どもや保護者が入手できる媒体で情報を提供している。おたより、入会のしおり、保護者会資料などを通じて情報提供を行っている。学童クラブ入会申請の広報は、市のホームページでわかりやすく掲載されており、申請に必要な書類のダウンロードやWeb申請も可能になっている。在籍児童には、おたよりにて入会申請の案内を提供し期間限定で在籍学童クラブでの受付も行っている。年度途中の入会申請については、各施設の定員の空き状況を毎月ホームページで掲載しているため、保護者にとって非常に分かりやすくなっている。 子どもや保護者に合わせ、わかりやすくサービス情報を提供している 学童クラブでは、子どもや保護者の特性を考慮し、わかりやすい表記や内容でサービスの情報を提供している。保護者会では、日々の遊びの様子や行事などの、子どもたちの様子を動画と写真にまとめてプロジェクターで映し出し、保護者に視覚的に伝えている。学童クラブでの過ごし方がより具体的に伝わり、保護者の理解が深まっている。手作りの誕生日カードでは、学童クラブでの一人一人の様子を取り入れたメッセージを添えることで、個別の配慮を感じられる工夫もしている。今後もこれらの取り組みを継続することが望まれる。 毎月おたよりを発行し、在籍児童や保護者に対して子どもたちの様子を伝えている 在籍児童や保護者に対して毎月おたよりを発行し、子どもたちの様子を伝えており、事業所本部や市の所管課のも送付している。また年2回の地域の児童館運営会議にも資料として配布されている。学童クラブへ保護者からの問い合わせや相談には業務アプリ、電話、面談など、状況に応じた方法で対応し、見学希望にも個別に応じており、必要に応じて、市の所管課に相談できるようにつながることもある。個々の対応は、職員で情報共有し、朝礼簿に記録している。			

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
入会説明会では、子どもや保護者の状況に応じた丁寧な説明と対応が行われている 入会が決定後、各施設で入会説明会を実施しており、保護者向けに2月末または3月の土曜日の午前中に開催している。出席できない保護者には個別対応を行い、説明会では「学童クラブ入会のしおり」を作成し、学童クラブの利用開始時間、終了時間、出欠席の確認、おやつ、災害時の対応など、学童クラブでの生活の仕方やルール等を説明している。さらに、質問や相談の時間を設け、説明会終了後も個別対応を行っている。子どもや保護者の状況に応じた丁寧な説明と対応が行われて不安を軽減できるようにしている。 新しい環境に馴染めるよう子どもの不安やストレスを軽減する工夫を行っている 入会申請書類に基づいて児童の特性を職員間で共有し、新しい環境に馴染めるよう配慮している。必要に応じて、保育園での様子を聞き取り、子どもの不安やストレスを軽減する工夫も行っている。初めて登室する児童の受け入れには、職員だけでなく、3年生が出席確認の仕方やロッカーの案内・ハンカチの確認などのお手伝いをしている。朝の会や帰りの会で生活の仕方や決まりをわかりやすく説明し、事故やけがを防ぐための見守りも徹底している。職員は、気づいたことをミーティングで報告・記録し、全職員で情報共有を行っている。 障害のある子どもの受入れに向け、子どもが混乱しないよう配慮している 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている。配慮が必要な児童や気になる児童については、保育園に聞き取りを行い、保護者との面談を通じて詳細な情報を把握している。友だち関係や好きな遊び、得意なこと、苦手なことなどを事前に把握するようにしている。全職員で共有することで、できるだけ子どもが混乱しないよう配慮している。また、学童クラブだけでなく、地域の居場所として「児童館」や「あそびバ」の施設の案内も行い、地域との連携を図っている。		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 10/10
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
学童クラブの年間目標や年間事業計画は入会説明会や保護者会で保護者に説明している 前年度末に職員全体で振り返りを行い、次年度の年間事業計画を作成し、学校や地域から得た情報を基に現状を考慮しながら計画を見直している。年間目標や年間事業計画は入会説明会や保護者会で保護者に説明し、理解を得よう努めている。障害をもつ子どもについては、毎月育成目標を設定し、達成度を全体ミーティングで振り返り、次の目標を決めている。また、保護者にも目標を伝え、学童クラブでの状況を報告し、情報共有をしている。発達センターも利用している子どもについては、今後、発達センターと情報共有できるように検討している。		
毎日の育成活動は日誌に記録され職員の情報共有が確立されている 毎日の育成活動は日誌に記録され、行事や活動の様子、遊びの状況も記録されている。月末には「育成状況報告書」として毎月の活動のまとめを作成している。特に、障害がある子どもの日誌は出席日に記入し、具体的な関わり方を詳細に記録し、毎月のまとめを報告書として主管課に提出している。気になる状況の子どもに対しては、ノートに記録をとり、より良い支援ができるように職員間で共有し、ケース会議の際などに活用している。子どもに関する記録の適切な作成と情報共有が確立されている。		
毎朝のミーティングで、職員間で子どもの状況等に関する情報を共有している 毎朝のミーティングで前日の子どもの様子や保護者からの連絡、相談について報告し、シートに記載している。全職員が出勤時に確認できるため、情報共有がスムーズに行われているが、シートだけでは伝わりづらいこともあるため、対面での情報共有も重要とされている。午後から出勤する職員には朝の職員がフォローを行い、子どもや保護者の情報に変化があった場合は、日付を記載して情報が記載されている書類等を更新している。情報の正確性とタイムリーな共有が確保されており、休暇中の職員も情報を把握できるようにしている。		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
子どものプライバシー保護と個人の尊厳を尊重している 子どもに関する情報を外部とやりとりする際には、保護者の同意を得るようにしている。施設を運営する法人は、ホームページやおたよりで学童クラブの紹介をしている。写真使用確認書を入会時に配布し全員提出してもらい毎年確認をしている。提出後変更が生じた場合は、速やかに学童クラブまで連絡してもらっている。保護者には、行事などで撮影した写真や動画を個人でインターネット上に投稿しないよう依頼し、プライバシー保護と個人の尊厳を尊重している。学童クラブは保護者と協力しながら、子どものプライバシーを守る取り組みを実践している。 子ども一人ひとりの個性を尊重し、話を聞きながら支援している 日常の援助において子ども一人ひとりの個性を尊重し、話を聞きながら支援している。子どもの様子がいつもと違っていた場合は職員間で情報を共有し、注視している。子どもの話を受け止め、嬉しいことや困りごとにも気軽に話せる信頼関係を築くことに努めている。また、他の人に聞かれたくない話は個室で話せるよう配慮し、保護者からの相談にも寄り添って対応している。子どもたちの個性を尊重し、保護者の価値観も考慮しながら、安心して学童クラブで過ごせる環境を整えている。 「聞き取りシート」を活用し、丁寧に話を聞きとり、問題解決に導いている 学童クラブ内での暴力やいじめ等の予防・再発防止を組織的に徹底しており、トラブル発生時には職員が公平な立場で当該児童から話を聞き、問題解決に導いている。聞き取りシートを活用し、「どうしてそうなったのか」「これからどうすればよいか」を丁寧に聞き取ることで、子どもが自ら気づけるように支援している。職員は朝のミーティング等で情報共有を行い、互いに不適切な行動や発言がないよう注意し合っており、子どもの権利と意思を尊重した運営が行われている。		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
マニュアルに従い、全職員が同じ基準で業務を遂行できるよう取り組んでいる 学童クラブのマニュアルには、日常の育成活動に必要な事項が詳細に記載されており、日常の安全対策や災害時の緊急対応、職員の役割、職場倫理、書類の記入方法、おやつ提供、登降室の安全対策、保護者対応などが含まれている。これらの内容は職員全員が参照できるように事務室に保管され、共通の意識を持つことができるようにしている。年度はじめや新たに配属された職員に対しては、マニュアルを用いた業務説明を行い、全職員が同じ基準で業務を遂行できるよう取り組んでいる。 マニュアルを見直すことで、サービスの質を維持・向上させている 提供するサービスが基本事項や手順に沿っているかどうか、定期的に点検・見直しを行っている。公設民営の学童クラブでは、自治体の方針を職員が理解し、その考え方に基いたサービスを提供している。年度末にはマニュアルの確認・見直しを行い、掃除や戸締りなどの具体的な作業の点検表は、不具合が生じた場合すぐに確認・手順等の見直しを行い更新している。課題やクレームが発生した際には、マニュアルを確認し、手順を再確認することで、マニュアルの適切性を評価する機会としている。見直すことで、サービスの質を維持・向上させている 子どもや保護者、職員等の多方面からの情報を集約しサービスの見直しを図っている 提供するサービスの基本事項や手順の見直しに際し、職員や子ども・保護者からの意見や提案を反映している。日々のヒヤリハットの記録は、手順の確認や見直しの参考にされ、施設長会議でまとめられ全職員に報告されている。保護者アンケートを実施し、その結果をサービスに反映するほか、行事ごとに保護者や子どもたちの感想・意見を聞く機会を設け、活動の支援に反映している。リーダー層は、日常の打ち合わせ等で出た改善点を経営側に伝え見直しにつなげており、サービスの質の向上が図られている。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	29/29														
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している 評点(〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	評価項目1の講評 安心できる環境と信頼関係を基に、子ども一人ひとりに寄り添った支援がされている 入会説明会では、全体説明の後に個別で保護者から話を聞く時間を設けている。この場では、保護者が自分の子どもの特性や配慮してほしい点を具体的に伝える機会が確保されている。また、児童状況書や保育園からの聞き取りを通じて、子どもの状況をさらに詳しく把握する取り組みも行われており、必要に応じて保護者に声を掛けて直接話を聞く体制が整えられている。さらに、お迎え時の保護者との日常的なやりとりを通じて子どもの様子を把握し、個々の発達状況に応じた支援が行えるよう努めている。 学童クラブにおける発達支援とトラブル対応のアプローチがある 発達過程で生じるトラブルに対しては、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげるための支援を行っている。職員事務室や図書室などの別室に移動し、落ち着いて話ができる環境を整えている。また、子どもの意思を尊重し、トラブル発生時には双方の話を聞き、当事者同士で話し合い、「ごめんね」という言葉を交わせるように支援している。必要に応じて保護者にも電話やお迎え時にトラブルの経過を伝え、翌日の朝に職員同士で情報を共有する体制を整えている。 職員のサポートにより異年齢や発達の異なる子どもたちが交流し助け合う心を育んでいる 発達面で配慮が必要な児童や障害のある子どもたちが、他の子どもとの生活を通じて共に成長できるように支援している。担当職員は必要に応じてサポートを行い、できる限り健常児と一緒に過ごせるよう見守っている。また、早めの声掛けや仲間に入れるための声掛けを行い、子どもができるだけ自分で行動できるよう職員は過度に介入せず、他の児童とのかかわりを大切にしている。異年齢や発達の異なる子どもたちが深く交流し、一緒に過ごすことで、お互いを認め合い助け合う心が育まれている。	
評価	標準項目																	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当																
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当																
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当																
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当																
2	評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当	評価項目2の講評 一日のスケジュールをボードに掲示し、自分の活動を選べるようにしている 職員は一日の予定をホワイトボードに記録し、子どもたちが自分で活動や場所を選び、自主的に活動に参加できるようにしている。ホワイトボードにはおやつや自由時間の流れが書かれており、今日一日の流れを自分で確認することができる。自由時間には過ごすことのできる場所が示されており、子どもたちはどのような遊びをするか考え選択できる。工作や読書などの活動の選択肢も示されている。また、育成室、図書室、プレイルームなどいくつかの場所から遊び場所を選択することもできる。 祭りの企画などで、異年齢の子どもたちが協力し合う取り組みが行われている。 夏祭りのゲームコーナーや進級を祝う会の出し物については、子どもたちと話し合い、子ども主体で進める取り組みが行われた。夏祭りのゲームは職員が決めたものの中から各自が担当を選び、夏休み中に子どもたちと共に景品やゲーム本体を作成した。当日の役割分担も決められ、保育園児を招待する企画となった。この過程では、上級生が下級生の面倒を見たり、教えたりすることで、異年齢の子どもたちが協力し合う姿が見られた。さらに、準備段階から当日にかけて、各コーナーでの活動を通じて子どもたちの協調性が育まれた。 月間目標を子どもたちと一緒に決め、現実的な生活習慣の習得も支援している。 生活や遊びの月間目標について、子どもたちと一緒に振り返りを行い、次月の目標を設定している。手洗いやうがいとは基本的な生活習慣として定着させており、壁には正しい手洗いの方法がわかりやすく掲示されている。また、「ゆずりあい」「たすけあい」「はなしあい」「〇〇あい」の四つの愛を大事にしており、これらの理念を四葉のクローバーに見立てた形で壁に掲示し、子どもたちに理解を深めてもらっている。さらに、社会に出たときに困らないよう現実的な生活習慣を身につけさせるため、基本的習慣の習得を目指している。				
評価	標準項目																	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当																
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当																
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当																

3	評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目			
	☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		☐ 非該当	
評価項目3の講評					
子どもたちが興味を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫された行事が随所に見られる。 毎月行われる誕生会では、ゲームや工作の時間を設け、子どもたちが気軽に参加できる雰囲気づくりを心掛けている。工作活動では、見本を用意することで子どもたちのやりたい気持ちを引き出し、自分だけの作品を完成させる喜びを感じられるよう配慮している。完成した作品はクラブ室内に飾られ、季節が来ると自宅に持ち帰る仕組みとなっており、作品を通じて達成感を得ている子どもたちの様子がうかがえる。ゲームでは、わかりやすいルールを採用し、班対抗戦の形式を取り入れることで、子どもたちが気負うことなく楽しめる工夫を行っている。 子どもたちが主体的に役割を選び話し合いながら企画や準備を進める仕組みが整っている 夏祭りや進級を祝う会では、子どもたちが中心となり、行事を進められるよう支援を行っている。廊下に紙を貼り出し、子どもたちが自分のやりたい役割や活動に名前を書き込む仕組みを採用しているため、自分の意思で役割を選び、主体的に行事へ関わることができるよう工夫されている。その後、同じ役割を選んだメンバー同士で話し合いをし、企画や準備を進めていく。子どもたちは責任感を持ちながら取り組み、主体性だけでなく、仲間と協働する力やコミュニケーション能力を育むことにもつながっている。 学童クラブでの「あそび」の経験が家庭にも影響を与え、子どもの成長を支えている。 行事や活動内容は、お便りや「こども」を活用して保護者に知らせている。誕生日カードは保護者から好評を得ており、学童クラブでの経験が家庭にも良い影響を与えていることがうかがえる。学童クラブでけん玉に触れた子どもが自宅でけん玉を購入したり、サッカーを始めたりするなど、子どもの遊びや活動に対する保護者の関心が見られる。また、特にチャレンジの賞状は、子どもたちに達成感をもたらし、親子で楽しみにしている様子がうかがえる。学童クラブでの日常の遊びを通じて、家庭と連携し、子どもの成長や意欲を支えている					
4	評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている			評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目			
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している		☐ 非該当	
評価項目4の講評					
挑戦や学童クラブの意義を伝えることで、通い続ける意欲を促進している。 遊びの中にけん玉・コマ・ルービックキューブ・お手玉にチャレンジするという取り組みを取り入れ、「挑戦→合格→表彰」というプロセスを通じて、子どもたちに達成感を得られる機会を提供している。子どもたちは、他の子どもたちから認められることで自己肯定感を高め、自分の成長を実感することができる。このような経験が、学童クラブでの生活をより楽しく充実したものになっている。また、年度初めには帰りの会で学童クラブに通う意義について話し、子どもたちにその重要性を理解させることで、学童クラブに通い続ける意欲を高めている。 子どもたちはホワイトボードを確認し、友達と相談しながら活動を組み立てている。 一日の流れをホワイトボードに記載し、子どもたちがその内容を確認できるように掲示している。ホワイトボードには、具体的なおやつの内容や自由時間の遊び場所・遊びの内容が明記されており、子どもたちは登室後にその日の予定を自分で確認することができる。さらに、子どもたちはお友達と相談しながら、当日の流れを自分たちで組み立てることができ、活動の見通しを持ちながら過ごすことができている。ボードにより、子どもたちは自分の時間を管理し、学童クラブでの活動に主体的に取り組むことができている。 自分の興味に合った活動を選び、安全で自由に過ごせる環境が整えられている 本や玩具、ボードゲームが常置され、安全に過ごせる環境が整えられている。床に敷くマットや丸テーブルも準備され、子どもたちが自由に過ごせる空間が提供されている。本は漫画や図鑑、読み物など多岐にわたるジャンルが揃っており、子どもたちの興味を引くものを積極的にリサーチして準備している。また、レゴブロック、プラレール、コマ、お手玉、折り紙、塗り絵など、さまざまな素材や遊びが用意されており、机に座って行う活動や床でゆったり過ごす時間、さらには図書室の活用など、子どもたちが自分のペースで過ごせるよう配慮されている。					

5	評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当	
	●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当	
	●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当	
評価項目5の講評				
新1年生の送迎などを通じ、学校と連携して子どもの支援を行っている。 新1年生については、入学直後の集団下校期間において、学童クラブの職員が学校に迎えに行き、登室する体制を取っている。この期間中、交通ルールや集団での安全な登室方法を指導し、子どもたちだけで登室できるよう支援している。また、学校と連絡を取り合い、学校に在籍している学童クラブ利用者の確認を行っている。運動会や生活発表会といった行事には学校から招待状を受け、職員が参観することで学校との関係をさらに深めている。また、行事予定については、学校のホームページを活用して随時確認し、学童クラブの運営に反映させている。 学校や関係機関と連携し、適切な援助を行っている 必要に応じて学校と連絡を取り合い、多摩川小学校若木学級に通う児童については、毎日職員が迎えに行き、その際に学校の担任と直接情報共有を行っている。また、子どもの様子に異変が見られた場合には、学校と連絡を取り合っている。さらに、子ども家庭支援センターすこやか職員の職員とも情報交換を行い、家庭環境や社会的背景を含めた支援が可能となるよう努めている。このように、子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな援助を行うため、関係機関との連携を積極的に進めている。 おたより交換など、さらに学童クラブを理解してもらうための取り組みが望まれる 学校とのより密接な連携を進めることが望まれる。例えば、学童クラブ在籍時の名簿を学校に共有することで、災害時に子どもの安全を確保する手助けになり、学校と学童クラブの双方が子どもの所在を正確に把握し、緊急時に迅速な対応が可能になると考えられる。また、在籍児童を通じて担任に学童クラブのお便りを届ける仕組みを整えることで、担任が放課後の子どもたちの様子を把握し学童クラブへの理解が深まると考えられる。学校と学童クラブの間での情報共有を促進し、子どもへの支援や配慮をより充実させるきっかけとなることが期待できる。				
6	評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当	
	●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当	
	●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当	
評価項目6の講評				
バイキング形式などで子どもたちがおやつを楽しめるよう工夫している 全員が同じメニューの日とは異なるバイキングの日を設け、おやつを楽しむことができるよう配慮している。自分の好みのおやつを選んで食べることができるため、子どもたちは楽しさを共有し、落ち着いて食事を楽しむことができている。さらに、お誕生会では特別なおやつとしてパン、ケーキ、肉まんなどが提供され、誕生月の児童の希望に応じて決定されることもあり、子どもたちが特別感を楽しむ機会となっている。班のメンバーとの会話を通じて、おやつを楽しく過ごすことを大切に考えており、子どもたちの食事体験が育成の一環となっている。 おやつ提供において、遅れて登室した場合にも対応するなどの工夫がされている。 おやつ内容は、甘いもの、しょっぱいもの、口当たりの良いものの3種類を基本とし、バランスよく摂取できるようコープで注文している。量については、多すぎず少なすぎず、適切に調整されており、子どもたちが無理なく楽しめるよう工夫されている。また、苦手なものに対しては、「食べてみよう」と声掛けをする一方で、食べられない場合は無理に強いることなく容認する姿勢を取っている。さらに、4・5年生が遅れて登室した場合には、別のテーブルでおやつをとるよう配慮されており、どの時間帯でも適切な支援が行われている。 エピペンの持参確認や個別の機の準備、台拭きの使い分けなど、配慮が行われている。 学校給食で提供されない種実類は学童クラブでも提供しない。また、アレルギー対応が必要な児童には、状況に応じておやつを持ち込みをお願いしている。さらに、エピペンを持参する児童については、登室時に毎日持参しているか確認し、万が一持参していない場合には保護者と連絡を取る体制が整えられている。アレルギー対応児には、所属する班の近くに個別の機を用意し、他のメンバーと一緒におやつを楽しめるよう配慮している。また、台拭きは他の児童と別のもを使用し、片付けの当番も免除するなど、細やかな配慮が行われている。				

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当									
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当																	
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当																	
	評価項目7の講評 健康講座の実施により、子どもたちの健康や安全に対する意識が深まっている。 毎年、夏休み期間中に健康推進課の職員による健康講座が実施され、子どもたちと一緒に受講している。この講座では、「たばこの話」をはじめ、毎年ローテーションで異なる3つのテーマが取り上げられており、普段なかなか耳にすることのない内容を学べる貴重な機会となっている。これにより、子どもたちは健康や安全についての意識を深め、病気やけがの予防の重要性を理解することができる。また、講座は専門的な知識を持つ講師によって行われ、子どもたちが興味を持ちやすいように工夫されている。 手洗いや感染症予防策を講じることで、子どもたちの健康と安全への意識を高めている 手洗いの正しい方法は洗い場の近くに掲示し、子どもたちが意識的に実践できるよう声掛けを行い、日常的に予防習慣を身につけられるよう支援している。特に感染症が流行している時期には、他の予防策や注意すべき点についても子どもたちに話し、予防意識を高めるよう努めている。また、学級閉鎖が実施される場合には、学校からの連絡を受けて、学童クラブでも感染拡大防止のためお休みをいただくなど、予防策を徹底している。これらの取り組みを通じて、子どもたちが自分の健康や安全に対する意識を高めることができるよう支援している。 事故発生時の手順が定められており、適切な対応が行われている。 けがや事故が発生した際には、事前に定められた手順に従い、関係機関との連絡を行う体制が整えられており、適切な対応が実施されている。また、目薬や薬の服薬については、基本的に子ども自身が行うこととされており、必要に応じて薬の持参が許可されている。職員は服薬のタイミングや点眼時に声掛けを行い、子どもが正しくケアを実施できるようサポートしている。さらに、入会時にはかかりつけ医の情報等を把握し、保護者と連携を取りながら、子どもの健康維持を支援している。																		
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保護者同士が交流できる機会を設けている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当																	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当																	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当																	
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当																	
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当																	
	評価項目8の講評 申請書類等を活用し保護者の個々の状況に応じた子育て支援を行っている 学童クラブ申請時に提出される申請書類等を活用し、ひとり親や兄弟関係、保護者の休職中や病休中、介護など各家庭の状況を詳細に把握している。これに基づき、育成開始時間やお迎えの時間、保護者の休務日の扱いなど、保護者の個々の状況に応じた子育て支援を行っている。子どもの出欠確認や育成時間申請届の変更確認も業務アプリや電話で行っている。子どもの具合が悪い時には、保護者に寄り添った対応を心掛けており、保護者が安心して子育てを行える環境が整えられている。 保護者会や親子交流会で保護者同士が交流できる機会を設けている 保護者会や親子交流会で保護者同士が交流できる機会を設けており、土曜日の午前中に開催される親子交流会では、誕生会で行ったゲームを紅白に分かれて対抗戦を行い、小運動会のような盛り上がりを見せた。その様子はおたよりに掲載し、コドモンで配信されている。近年では父母会の負担のない施設を選ぶ保護者が増えており、学童クラブの行事に時間を取られたくないとする保護者も増えているので、交流を深めることが難しいとされている。そのような声もあるが、取組みを続けることで、保護者が安心して子育てを行える環境が整えられている。 保護者と信頼関係を築き、安心して子育てを行える環境が整えられている 保護者会や親子交流会、日々のお迎え時などでの交流を通じて、信頼関係を築いている。お迎えに来た保護者には、その日の出来事を対面で伝えることで信頼関係を深めている。来る機会が少ない保護者とは対面で話す機会が少ないため、信頼関係を築くのに時間がかかるが、少しずつでも築き上げている。子どもの様子や発達状況については、保護者との共通認識を得る取り組みを行い、対面や電話での話を通じて情報共有を行っている。出欠確認においては、連絡のない場合や相違がある場合に保護者に迅速に連絡し、協力を得ている。																		

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
	☒ あり ☐ なし	2. 学童クラブの行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評			
地域資源を活用して、子どもたちの生活の幅を広げ、地域との関わりを深めている 地域資源を活用して多様な体験や交流の機会を確保しており、近隣の図書館で子どもたちが本を選び、学童クラブとして本を借りる活動や、出席人数の少ない日に近くの公園や多摩川の河川敷に散歩に出かける活動が行われている。現在、在籍児童数が多いため、地域の行事への参加が難しい。少人数で順番に参加するなど参加方法を工夫しているが、今後さらに見直しを模索している。子どもたちの生活の幅を広げ、地域との関わりを深めている。 地域の子どもや大人との交流の機会を確保している。 学童クラブの行事には地域の人々の参加を呼び掛け、地域の子どもや大人との交流の機会を確保している。また、併設している保育園との交流も行っている。近隣の児童館まつりには希望者のみが各自で参加し、地域の人々との交流を図っている。施設長は児童館運営会議に出席し、学童クラブの状況や行事を紹介している。中学生の職場体験や大学の実習生の受け入れも行い、小学生・中学生・大学生が共に生活する体験の場を提供しており、地域との連携を深めている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-2-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している
タイトル①	中期経営計画の確実な目標達成に向けて取り組んでいる	
内容①	市の基準を遵守しつつ、法人独自の取り組みを盛り込んだ4つの柱による中期経営計画を立案し、魅力ある学童クラブの運営を目指している。外部コンサルタントの助言を受け、各地域に応じた単年度計画の作成と具体策の明確化を図り、確実な実行に向けて取り組んでいる。また、計画の進捗状況や達成度については、四半期ごとに確認と見直しを行い、次年度に向けた課題抽出を実施している。このプロセスを通じて、目標達成に向けた手順が整理され、確実な達成を目指している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-1	子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している
タイトル②	生活や遊びに関する月間目標は、毎月子どもたちが話し合いを通じて作成されている	
内容②	学童クラブでは、状況の変化に応じて目標の見直しを行っている。生活や遊びに関する月間目標は、毎月子どもたちの話し合いを通じて作成され、主に水曜日や一日育成の日にグループごとで行われている。話し合いは班長を中心に進められ、1年生も積極的に発言できる環境が整備されている。振り返りを通じて必要に応じて目標を継続する柔軟な対応が取られている。子どもたちはリーダーシップを発揮し、自分たちの生活目標を主体的に考える仕組みが整っており、職員はサポート役として関わり、子どもの自主性を引き出す取り組みを進めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	自己肯定感を高め、仲間との承認を促進する多様な環境が整備されている	
内容③	遊びの提供において多様な選択肢が用意され、子どもたちの興味や関心に応じた活動を支える環境が整備されている。漫画や図鑑、読み物などを揃えた読書環境や、丸テーブルや囲まれたスペースで落ち着いて遊べるゾーニングが特徴である。また、空き箱を活用した自由な工作、けん玉やお手玉の遊び方を示した掲示、塗り絵やルービックキューブなど、子どもの挑戦意欲を引き出す仕掛けも充実している。さらに、チャレンジ達成時には賞状が授与され、名前が掲示される仕組みが、子どもの自己肯定感を高めるとともに、仲間からの承認にもつながっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの安全を第一に、施設内外の安全確保に向けて取り組むとともに、子ども自身が安全意識を高められるよう支援している
	内容	事業所は3階に位置しているため、階段などでの事故防止に向け、要所に注意喚起の掲示を工夫するとともに、子どもの発達段階に応じた職員の適切な介入を行い、子ども自身の安全意識の確立を図っている。また、同建物内にある保育園と連携した災害対策を講じることで、子どもの安全を第一に職員間の意識共有を図っている。さらに、小学校からの通学路では、年度初めに職員が危険箇所などを事前に確認し、見守り活動を行うなど、施設外での子どもの安全確保にも細やかに対応している。
2	タイトル	子どもたちが先の予定を把握し、主体的に活動できる環境づくりを目指して、掲示方法や遊びの提案など、さまざまな工夫が施されている
	内容	ボードには一日の流れやおやつ、行事などが記載されており、子どもたちは次に何をするのかを把握しやすくなっている。また、壁には月ごとの育成目標が掲示され、年間を通じて生活の指標となっている。このような目標設定は短期的な達成感を与え、継続的な成長を支えている。加えて、けん玉やコマなど遊びの説明が掲示されていることや、挑戦を促すピラミッド型の掲示は、子どもたちの挑戦意欲を引き出し、達成感を与える工夫として効果的である。子どもたちは安心して生活を楽しむとともに、自分で選び行動する力を育む仕掛けが充実している。
3	タイトル	毎月のおたよりには、写真やオリジナル「4コマ漫画」が掲載され、子どもたちの遊びや会話の様子が具体的に伝えられている
	内容	毎月のおたよりを通じて、子どもたちの生活や遊びの当月の目標、行事予定、子どもたちの様子が丁寧に伝えられている。前月の行事報告には写真やオリジナル「4コマ漫画」が掲載され、子どもたちの遊びや会話の様子が具体的に伝わり、保護者との情報共有が深まっている。また、スポーツ大会の結果や達成感を報告し、誕生会などの行事を通して子どもたちの成長や楽しんでいる様子を共有する取り組みが行われている。おたよりの工夫により、保護者との連携を深めながら、学童クラブでの活動がより豊かなものとなっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子ども達の未来の地域コミュニティの形成に向けた取り組みに加えて、さらなる地域連携に向けた検討を図ることに期待したい
	内容	事業所周辺は、新興住宅地としての開発が進む地域であり、地域コミュニティの様相も変化してきている。特に、自治会の世代交代や新型コロナウイルスの影響により、地域のつながりにも変化が見られる。現在は、他の学童クラブや児童館との交流をはじめとした地域のつながりの再構築に取り組み、子どもが主体となる地域コミュニティの確立とその継承を目指している。例えば、社会福祉協議会などと連携することで、地域ボランティアの受け入れや地域貢献につながる活動の展開ができるなど、今後の地域連携との確立に向けた検討に期待したい。
2	タイトル	子どもたちが主体的に話し合い、準備内容や役割分担を自ら決定する取り組みにより、自主性を育む仕掛けが求められる
	内容	現在は祭りのコーナー決定の際、職員がいくつかの候補を提示し、その中から子どもたちが選びながら準備を進めている。しかし、今後は子どもたちの自主性をより一層育むため、さらなる仕掛けが望まれる。たとえば、夏祭りの際に、どのようなコーナーを準備するか、また役割分担をどのように決定するかといったプロセスにおいて、子どもたち自身が話し合い、決定していく取り組みが期待される。こうした取り組みにより、子どもたちは自らの意見を自由に発表し、互いに協力しながら意思決定を行う経験を積むことができると考えられる。
3	タイトル	学童クラブのサービス標準化を検討することで、さらなる質の高いサービスが実現していくことを望みたい
	内容	学童クラブでは、業務マニュアルを作成・共有し、必要に応じて見直しを行っている。日々の業務手順を確認し、ヒヤリハット事例や保護者・子どもの意見を取り入れて課題を改善している。全職員がマニュアルを共有できるよう読み合わせの時間を確保し、臨時職員にも調整を行っていききたい。職員間の話し合いを行い共通理解を深めていきたい。法人の施設長会議でマニュアルの意見交換を行い、法人全体で学童クラブのサービス標準化を検討することで、さらなる質の高いサービスが実現していくことを望みたい。